

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第2回広報広聴推進委員会	
開 催 日 時	平成29年10月10日（火）10:00～11:50	
開 催 場 所	宍粟市役所3階 庁議室	
議長（委員長・会長）氏 名	委員長 鎌田恵司	
委 員 氏 名	（出席者） 委員：鎌田恵司、平野安雄、大柿直記、春名豊滋、前野良造、高田佳一、前井真貴、加藤智子、樽本勝弘、梶本 愛 広報広聴アドバイザー：井関崇博 計11名	（欠席者） 委員：古根川淳也、小野文乃
事 務 氏 局 名	企画総務部次長 上長正典 秘書広報課長 三木義彦 秘書広報課副課長 小河秀義 広報係長 宮辻貴之 広報係主査 上月恭子	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) ＊内容 ・宍粟市コミュニケーション戦略プランの進捗状況と今後の対応について ・しそくチャンネルの加入促進の取組について ・Twitter（ツイッター）及びLINE（ライン）の取組について ・報告事項（タウンミーティングの実施について）	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	(委員長等)	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	○開会 ・平成 29 年度第 2 回目の広報広聴推進委員会を、手元の次第に基づいて開催する。 ・広報広聴分野については市として特に力を入れていかないといけない部門であると考えている。委員のみなさんからの貴重なご意見を活用していきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。
委員長	○あいさつ ・委員においてはお忙しい中の出席を感謝したいと思う。私も土日は地元の秋祭りの当屋があたっており、準備に忙しかった。奉納こども相撲は小学生 2 人と幼稚園 1 人の計 3 人しかいないため、孫が 2 人帰ってきたり親戚の子に参加してもらったりで計 6 人、中学生にも参加してもらった。昨年からこども神輿もかっげなくなったため、相撲は続けたいとの声があがった。大変な状況になったと感じている。今年から千種では敬老会も地域自治会対応となったが、自治会内の 75 歳以上は 37 人。10 歳以下が 3 人の状況は消滅村落ではないかと感じている。本当に深刻な問題だと思う。50 年後には村がなくなるのではとも思ってしまう状況である。子づくり子育て戦略と言われているが、本当にどうすればよいのかと思っている。抱えている問題は多々あるが、日曜日には千種で初めて「中高合同体育祭」が開催された。私も参加させてもらったが、県立高校と市立中学校の合同体育祭というものは県下のみならず全国的にも珍しい取り組みであるとのことだった。少子高齢化の状況の中での取組で、非常に感動的なよい体育祭になり、何とか頑張ろうとされている教育関係者を含めたみなさんの努力であると感じた。各々抱える課題はあるが、本日は第 2 回目の広報広聴推進委員会であるのでよろしくお願いしたい。
アドバイザー	○あいさつ ・委員長からのあいさつの中で大きな難しい状況の話があった。広報広聴においても、最終的にはその問題に行きつくことを目指しているのではないかと考えている。ただ議論しているだけでなく、できるだけ何かしらの機能ある事業に繋がるように議論できればと思っているのでよろしくお願いしたい。
事務局	○協議事項 ・ここから進行を委員長にお願いする。
委員長	・次第にもとづき会議を進める。みなさんの協力をお願いする。 ・事前に配布された資料を確認されたことと思う。(1) 宍粟市コミュニケーション戦略プランの進捗状況と今後の対応について、から進めることとする。手元の資料、行動項目ごとに説明を受け、各項目 5 分程度ずつ意見をいただければと思う。事務局より説明をお願いする。
事務局	・手元資料と、宍粟市コミュニケーション戦略プランの取組に対する意見交換資料をもとに説明する。平成 27 年度に策定した宍粟市コミュニケーション戦略プランの内容を項目ごとに整理した資料である。その中で、基本理念を「広報広聴をまちづくりのためのコミュニケーションツールに」としており、その達成のための行動項目を定めている。市として取り組みがどの程度できているかを評価指標としてあらわしたので、確認いただきたい。意見交換資料には各行動項目ごとに整理し、主な取り組みの総括をあげているのでご意見いただきたいと考えている。

事務局	○行動項目1の各取り組み①～④について説明
委員長	・説明のあった行動項目ごとに目安は5分程度としてご意見をいただきたい。
委員	・1点提案を申し上げたい。1ページ目の一番下に事業担当と広報担当の連絡連携ができていないとあるが、冒頭アドバイザーや委員長のあいさつでもあったが、宍粟市全体を見ながら、いろいろな情報の共有が難しいと感じている。特に今、少子高齢化の中で雇用の問題ということが一番大きなコアの課題ではないかと考えている。その中で企業のホームページとのリンクという提案が以前に出たと思うが、市のホームページの中で企業のことを紹介できたり、企業のホームページの中で、市の情報をお互いが共有提案できるような一元化という提案があつてから久しいが、その検討についても事業担当課と広報の担当課がしていただき、ただ単なるお知らせの広聴だけでなく、市内部ではなくもっと他の媒体、広い意味での市の情報や企業が求めている情報を広げていくような手立てをぜひ行っていただきたいと考える。これは考え方によってはすぐに実行できると思われる。
事務局	市のホームページから企業ホームページへのリンクについては、以前商工会へ相談に行かせていただき、前向きに検討しているところである。その中で、企業の紹介として、しそチャンネルを通じて雇用の情報などを提供できるような取り組みができないか等提言もいただいている。現在内部で協議中であり、前向きに進めているのでご了解いただき相談にのっていただきたい。
アドバイザー	・議論に入る前に確認したい。協議事項(1)の各項目の確認については何のために行うのか。その説明が前回されていない。この推進委員会は、コミュニケーション戦略プランに書いてある取り組みを推進していく行政に対して意見を言う場だという理解でよいか。その上で、今、市としてはたくさんある広報広聴に関する事業について説明し、我々は一般市民として評価を確認し、この部分に関してはもっとこうするほうが良いというような意見を言う、そうするとその次にはここで出てきた意見を市として受け止めてという流れになる。ここで5分程度の議論をした内容、コメントがどのように扱われていくのか。次のステージを事務局から説明していただいてから議論に入ったほうがよいのではないかと考える。今突然議論を、といわれてもそのコメントがどのように取り扱われるのかを確認したい。
委員長	・協議内容が次のステップでどのように活かされるのか。事務局から説明をお願いします。
事務局	・コミュニケーション戦略プランを27年度に策定し、市の施策の中で取り組んでいる。プランは策定したが、それがどの程度進んでいるかを今まで検証していない。検証の中で意見をいただき、プランを実現させていくことで基本的部分が達成できるのではないかと考える。議論いただいた意見については事務局で対応できるかどうか等検討し、改善の取組にしていきたいと考えている。さらに戦略プランを進化させていくようなものを委員会として提言いただけるようであれば、議論を深めて提言としてまとめていただければとも考える。市の取組として未着手であるなどの部分もあるので、取り組みの方策を意見いただくことが必要であると考えている。項目評価で市が充実していると評価しているものについても、委員から見て十分ではないということもご意見いただければと思う。
アドバイザー	・資料に書かれている評価を見て、委員がここはもっと力を入れて取り組むべきであるというようなことをこの会議で決めていくのか。そうだとすると、その絞り込んだことについて、次回にもっと深く取り組んでいくのか。そうではなくて、ここに書かれている項目にはない色々

	<p>な方法論があって、その方法論について我々のほうからこういうやり方ではなく、もっとこうしたほうが良いのではないかとアイデア提議をするのか。そうだとすると、次の回に何をするのか。そのアイデア出しの場とするのか。今、我々が意見を出して行って、次回また同じように評価についてのアイデアを出すのか。そうではなく、もっと絞り込んだ議論をすることになるのか。このメンバーで提言をまとめるのか。</p>
事務局	<p>・今回、この取り組みについての意見に対し、この場でお答えできない部分については次回にお答えできればと思う。今回は一度評価することで現状を確認し、その後できていない部分の理解を深め、また項目ごとに議論を深めていただき、次回につなげればと考える。</p>
委員	<p>・この会議は2年前から開催されており、その中でいろんな意見が出ている。今回取り上げた部分に関することもいっぱい出てきたと思う。それに対するアクションは何もなく、戦略プランに対する評価だけされても、それは策定したサイドですればよい話ではないかと思う。我々は会議の中で意見を言ってきて、それがどういう形で実現されてきたのかというところが一番知りたい。例えば、説明の中であったPR動画についても評価はされているが、その前にPR動画の出来はどうなんだ、作り方はどうなんだというような議論をこの場で相当したと思うが、その部分についての説明・評価は何もなく、この結果だけ見せられても広報広聴委員会としては全く次元の違う話だという感じがする。これまでの議論は何だったんだと思う。</p>
事務局	<p>・委員がおっしゃられるところは、前身ではしそチャンネル・しーたん通信の委員も務めてくださり、意見を積み重ねてくださった部分への思いがあるかと思う。色々なご意見をいただいた中で、前回の会議でもおっしゃっていただいた、しそチャンネルの民間運営についてもご意見もいただいている。一つのことを実現しようと思うとある程度のもの、人の準備が必要となる。このあと一例として具体を見ていただきたいと思っている。先ほど事務局から申し上げた広報広聴分野については非常に範囲が広いテーマであり、これまでご意見いただき積み重ねでプランを策定している。その全体を俯瞰で見ていただくことが今までできていなかったため、策定から一定期間を経た今回の機会に、全体を見ていただきご意見を頂戴したいと考えたものである。単体で見ていただく部分と全体を見ていただくところについて説明させていただく。さらにはご意見いただいた中でも、分野が複数あり広いため、なかなかこの場でみなさんに議論いただくことが難しいところ出てこようかと思われる。そういった部分について今後どのような形で議論いただくのがよいかご意見いただきながら、正副委員長やアドバイザーに方向づけを相談させていただきながら今後進めていきたいと考える。PR動画についても、これまでに取組の過程や作成の元段階から前後が違うのではないかというご意見をいただいていた。これから取り組んでいくものについてはご意見いただいたことを参考にしていきたいと考えている。</p>
委員	<p>・ぜひ、これまでの議論が無駄にならないようにしてほしいと思う。</p>
委員	<p>・先ほど、範囲が広いから絞らないといけないという意見があった。資料をひとつひとつ確認したが、担当者の原稿の書き方の問題であるとか、新聞などの報道への記者発表での情報発信などがあがっている。私も経験があるが、新聞など報道は、行政からの提供ではない情報を伝えることが本来の目的であり、それが当たり前である。行政からのお知らせは、行政で行うべきである。新聞は自分が集めた情報を読者に対して出していく。提供された原稿を、そのまま記事とするなら誰にでもできる。PR動画のことも評価として上がっているが、これはすべて庁内のことである。この会議で協議すべきことではないと考える。もっと全体を一つのことにと絞って、あらかじめ事務局で資料を作成し、委員はそれを事前に熟考し、具体的にこの会で推</p>

	<p>し進めていこうという議論ができる。この資料を今提供されても意味がない。先ほど意見にもあったが、2年も会議をしてきて、この資料はその当初に渡されなければいけないものである。今更この資料がでてきても、あまり必要がないものだと感じる。これは事務局側で収めておいてもらえればよい。今回や次回は、今後何をするのか、もっと焦点を絞ってほしい。動画をPRしても、果たして宍粟市の認知度がどれほど上がるか、知名度がどれほど上がるか。広報広聴委員会は、市の情報をどうやって市民に伝えていくのかを議論する場ではないと思う。事務局の捉え方がぼやけている、間違っているのではないかと感じている。</p>
委員	<p>・みなさんはこの会議で、ザクツとした大きな話、コミュニケーション戦略プランを検証するのか、広報広聴委員としてひとつの媒体ごとに検証を行って意見や検証をするのかということところが認識できていないのではないかと思う。その部分の説明がものすごく不足している。たぶん、この戦略プランの検証をしてください、というのはひとつずつの媒体の議論をしたら、そこに当てはまっていくのではないかと思う。今言われたように、今日はこの媒体に絞って議論しましょうという会議の進め方のほうが、進み具合が実になると考えるがいかがか。</p>
委員	<p>・先ほど意見が出ていたので確認したいが、この会議は宍粟市民向けのものか、市外向けのものか、それとも両方に対するものか。私は「市民向けのもの」という解釈でいたがいかがか。</p>
委員	<p>・私も最初にお聞きしておきたかった。前回会議は欠席していたのでどこまで議論がすすんでいるのかわからないが、一点目として今回の進捗確認は必要であると思う。しかし、この場で議論することかなと疑問である。これは事務局側で確実に進めてくださいとお願いしておけばよいことだと思う。二点目としてコミュニケーション戦略プランもそうだし、この項目表すべてにおいてだが、市民に対しての情報と、市外の方に宍粟市を知ってもらうための話とがすべて混在している。たぶん市民にとっては「ごみの集め方が変わる」「雇用について」「休日診療医」などの情報が必要で、市民向けに確実に届けなければならない情報だと思われる。それとは別に、ゆくゆくは移住であったり観光だったりで宍粟市へ来てもらうための活動、市外の方に宍粟市をどんどん広めたいという活動と、全く別の活動が全部一緒に入っているの理解しづらくしている要因ではないか。この委員会が市内市外のどちらに対してのものかの認識ができていないため委員のみなさんの立ち位置がわからないのではないか。そこを絞り込んだ上で議論するとそこに意義が生まれるのではないかと思う。</p>
委員	<p>・今おっしゃったように、市内向けか市外向けか、市外向けについては以前から何度か討議されているが、それは絞ればPR動画で取り上げたように「移住」という問題に行き着く。どれだけ市外から人に来ていただくか、人口の減少を防ぐ方法。それと「観光」の二点に絞られる。それ以外はすべて市内の問題である。しかし「移住」や人口減少にどう歯止めをかけていくとか「観光」の問題への議論は後でよいと思う。まずは、いかに市民に向けて情報を伝えていくか。伝えるだけでなくどのようにフィードバック、反応を確認していくかがもっと大事である。与えると同時にどれだけ受け取れるかが大事。私はまず近くからが大事だと考える。事務局からはその視点から資料作りをしていただけたらと思うので、今回の資料は理解がしにくいものであった。</p>
委員長	<p>・議論に入る最初の部分から様々なご意見をいただいた。これからどのように進めればよいか。</p>
アドバイザー	<p>・これからの進め方について提案がある。この網羅的なチェックは必要なものである。ただ、タイミングが問題であり、このような委員会はプロセスが大事。さきほど委員から意見もあったように、このようなチェックは委員会の最初の段階、例えば前回第一回の会議時や、あるい</p>

	<p>はプランができたときに最初の段階でチェックして、その中で一番重点的に取り組むべきところはどこかを絞り込む。それも一つでなくてよく市外向け、市内向け含めいくつかあげて、その中で絞り込んだところにひとつずつ取り組んでいく。そこで取り組んだことに対し、この場で検証も行い、そしてこの委員会の最後にもう一度網羅的なチェックを行う。そしてこの委員会での成果を確認するというプロセスで進めていくべきことが、そこがなくて第二回のこのタイミングでこのようなチェック表ができたため委員の中に混乱が出たと思われる。今日はせっかくな資料があるので、網羅的にごく簡単に説明とチェックを行い、特に委員に説明する必要がある項目、◎や×の取組項目に絞って全体総括をしていただきたい。</p>
委員長	<p>・アドバイザーからの助言があったように、事務局から項目を絞って全体総括をお願いします。私の意見として、第1項目の「ホームページ」についてなかなか進んでいないとある。私もよく市のホームページを見るが、なかなか見難く調べにくいと感じている。古い情報が残っているところがあるので、各部署で確認して、もう少し見やすく誰でもパッと必要な情報に行き着くようにしていけばよいと思う。改善をお願いしたい。では第1項目についてはよいか。</p>
委員	<p>・「聴覚障がいのある方については「シーたんファックス」によりお知らせしている」とあるが、私の自治会にも対象と思われる方がいらっしやる。「シーたんファックス」は希望があれば取り付けてもらえるということか。</p>
事務局	<p>・シーたん通信が開局した当時に、福祉部局と連携を取り、障がいによって音声のお知らせでは情報が伝わらないという方の情報を把握した。聴覚に障がいがある方は、自宅にファックスを取り付けておられるので、音声でお知らせしている情報原稿を、ファックス通信用原稿にして送信している。</p>
委員	<p>・では、障がいのある方についてはもれなくファックスでのお知らせができてということか。</p>
事務局	<p>・福祉部局と連携のうえ、現在必要と確認のとれた対象者については対応できている。あわせて危機管理情報、災害や先日では台風による避難準備情報など急を要する情報を発信し受信していただく必要がある。昨年度の取組として、自動で情報を発信するシステムも導入した。従来より早く情報が発信できるように取り組めた。</p>
委員長	<p>・では行動項目2について事務局から説明をお願いします。</p>
アドバイザー	<p>・説明前に、先ほど委員よりご質問のあった市内市外どちらに対するものかという整理をしておく。行動項目1及び2については基本的に市内・地域内に向けた取り組みである。行動項目3が市外・地域外向け。しかし、PR動画のように、地域外向けだが一部地域内の方にとっても影響を与えるもの、あるいは地域内向けのイベントだが地域外からも参加できるもののように重なっているものもある。ただ、基本的には1.2は地域内向け、3は地域外向け、行動項目4は行政内向け、その整理で理解願いたい。</p>
事務局	<p>○行動項目2の各取り組み①～④について説明</p>
委員長	<p>・行動項目2についてご意見はあるか。</p>
委員	<p>・モニター制度について。私は総合病院のモニターとして登録している。1年間モニターした</p>

	<p>結果を数ページにわたって病院側へ報告・意見したが、その後なんの反応もない。「制度は活用できていないが」と文章中にあるが、活用できていないではなく、活用していないと思う。そのほかモニター制度はどういう分野で活用を考えているのか。</p>
事務局	<p>・過去に広報モニターに取り組むべく始めたが、入り口である募集に対し応募がないなどで取り組みに及ばなかった事例がある。周知不足であるといった課題もあった。総合病院を含めてだが十分な活用に至っていない反省がある。</p>
委員	<p>・ふれあいミーティングやモニター制度など全般においてだが、市民などから意見が出て、こういった市政にしていってほしいといわれたこと要望に対して実現したことはあるか。何かまとまったものはあるのか。みな、声を出したとして、自分の声が形になって実するという確証が持てれば声は出てくると思う。先ほど委員が言われたように、意見は募ったけれど、出た意見がどう活用されたか全くわからない。もしくはどこかへ置き去りにされたのではないかと思う。どうせ意見を出しても聞いてもらえないという思いを持たれてしまうと、せっかくのいい取り組みや仕組みが無駄になってしまう。活性化してこない。実際に形になったものが目に見えてわかると参加しやすいと市民として感じる。</p>
委員長	<p>・アンケートのようなものか</p>
委員	<p>・実際に市長がいるところで意見を出したが、出したことで終わりという感がある。聞き入れてもらえなかったという感想を持ち、フラストレーションだけが残った。</p>
委員長	<p>・タウンミーティングのようなものか</p>
委員	<p>・集まりの場で意見を言ったが、意見に対し答えがなく聞き流されたような感じがした。そこが実になると分かれば意見もどんどん出てくるのではないか。</p>
委員長	<p>・もうすぐタウンミーティングも始まる。発言しても返答がなく、また一年後に同じ話をすることを繰り返すのではなく、きちっと行政が受け止めて、改善するところは改善する、できないところはできないと返していくことが必要と考える。</p>
アドバイザー	<p>・これもこの場と同じで、計画行政という言葉があるが、いわゆるPDCAの手順で行政が動いている。実行する段階で意見を言われても困る、それはわかるのでしっかりとPの段階の時に意見を言える機会を与えてほしい。そこで意見が言えればきちんと実行に反映される。意見を言う・聞くタイミングが重要。タイミングをふまえた意見徴収、モニター、ミーティングがされているかどうかが大切。もう一つは、「このテーマに対する意見をください」だと意見が絞れるが「何でもよいから意見をください」だと、例えば役員やはけ口にしか思っていない人しか来ないということが起きる。意見を聞くタイミングやテーマ設定が大事。絞ったテーマに対して答えていく。これは広聴だけでなく、行政全般幅広く言えることである。</p>
委員長	<p>・行動項目3について簡潔に説明願う。</p>
事務局	<p>○行動項目3の各取り組み①～③について説明</p>
委員長	<p>・行動項目3について意見があればお願いしたい。</p>

アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮き彫りにならないことが多いが、部局間の縦割りの問題が大きい。昨年度取り組まれ広告、PR動画は観光やまちづくり、定住・移住のセクションと連携して取り組めなかった。森林セラピーや田舎暮らしについても、本当は広報担当課だけでやるのではなく、行動項目3については観光、まちづくり、定住移住、広報と横断的なテーマであるので、連携をしっかりとれていないことが色々な問題を引き起こしている。早めに調整を取る必要があると考える。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう問題を取り上げようという具体が決まった時に、委員として意見を言いたい。②広報メディア項目で「口コミによる広報を意識した広報活動」とあるが、口コミというのはいいものも広がるが悪いものも広がる。むしろ悪いもののほうが風評被害と呼ばれるもののように、広がり是非常に速いと思われるので、私はあまり意識しないほうがよいと思う。また、Facebook、LINE、Twitterの活用とあるが、具体的に聞きたいことはたくさんある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○や×といった評価については誰が行ったか。広報担当のみで行った評価か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主としては広報担当課で行ったが、関係部局へはこの評価で問題ないかを確認している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報担当課で作り、後で確認だけとったということで理解した。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本庁のみで行ったのか、支所にも確認したか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全関係部局に確認はとっている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動項目4について簡潔に説明願う。</li> </ul>
事務局	○行動項目4の各取り組み①～③について説明
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動項目4について意見があればお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕組み作りをこれからおこなうと説明があったが、事業担当部局に広報広聴担当の職員はいるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各課に1名ずつ担当職員がいる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、その担当職員がその部署ごとに課題を整理し、どのように情報発信をおこなっていくかを検討されていると考えてよいか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お見込みのと通りの役割を与えているが、十分に機能できていない状況にある。今後、研修等を行い強化し進めていかなければならないと認識している。</li> </ul>
アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①に関係するが、広報分野についてはどんどん専門性が高くなってきている。幅広く深い分野に対し、すべて市役所内部でやりきることはないと思う。外部に委託することには取り組まれていると思うが、もっと外部の組織や人材を活用していくことで、トータルの体制を整えることが重要である。色々と課題はあると思うがぜひ取り組んでいただきたい。外部人材を使うほうが市民にとって有益である。</li> </ul>

委員	・これまでにPR会社や代理店と一緒に取り組んだ実績はないのか。
事務局	・昨年度のPR動画作成事業についてはPR会社に業務委託し制作を進めたが、事業を始める入り口の部分、業者に任せて計画を進めた過程や手順のあたりについて、当委員会から様々なご指摘をいただいたところである。委員会において出来上がりを確認いただいた際に頂戴した意見を今後の糧にしていきたいと思っている。
委員長	・重点プロジェクトについて簡潔に説明願う。
事務局	○重点プロジェクト7項目の各取り組みについて説明
委員長	・重点プロジェクトについて意見があればお願いしたい。
委員長	・地域コミュニケーションマニュアルとはどういうものか。
事務局	・地域の中から情報発信を行う部分、市が総括してすべての情報を発信することは困難。地域で取り組んでいる活動については、地域が発信できるようにする取り組み。すでに取り組まれている地域もあるが、例えば自治会長から市への情報提供など、手順など方策をわかられていない地域もあると考えるので、その部分について着手していきたい。
委員長	・例えば、まちづくりの担当部署に対し、自治会でのイベントに対する取材依頼をすることなど含めた情報発信マニュアルか。
事務局	・それも含め、自治会として自ら情報発信をできるようなマニュアル作りを進めていければと考えている。すべてを市で行うことは困難である。
委員長	・また自治会としての業務が増えるのではないか。
委員	・自治会長というワードが出たため確認したい。毎月の配布物は秘書広報課が担当か。
事務局	・全体の担当ではないが関連はある。
委員	・毎月の配布物をもう少し簡素化できないかと要望したい。紙の数量が多い。大きな自治会は特に大変との話を聞く。自治会長が隣保ごとに仕分けすることが非常に負担大。半日かかりでされるところもあるとのこと。横の連携を図り、簡素化をお願いしたい。
委員長	・他に意見質問はないか。
委員	・なぜ重点項目はこの7項目に絞られているのか説明をお願いしたい。項目に対する要望がでているのか。
事務局	・平成26年度にコミュニケーション戦略プランを策定された時の委員の意見を取りまとめて7項目となった。策定時の課題として特に重点的に進めるべきものとして得出しされたもの。行動項目1～3からの重点再掲と考えてほしい。
委員長	・これまで委員から出た意見を反映し、次回からの会議に活かしていただきたいと事務局に対

	<p>をお願いしたい。では、協議事項 (2) しそうチャンネルの加入促進の取組について事務局より説明を願う。</p>
事務局	<p>○協議事項 (2) しそうチャンネル加入促進の取組について説明。 ○15分のしそうチャンネル新番組を視聴。 ・民間人材の活用を行い、市民参加型の番組作成をすることによって、より魅力的な情報発信を行い、しそうチャンネル加入促進への取組とする。また地域の活力づくりに活かすことを目的としている。</p>
委員長	<p>・協議事項 (3) Twitter (ツイッター) 及びLINE (ライン) の取組について説明を願う。</p>
事務局	<p>○協議事項 (3) Twitter (ツイッター) 及びLINE (ライン) の取組について説明</p>
委員長	<p>・協議事項 (3) について意見があればお願いしたい。どのような内容、方法での発信が望ましいか。</p>
委員	<p>・Twitter と LINE、Facebook など情報を受ける側は、発信が複数あるとどれを見ればよいのか悩むのではないか。</p>
事務局	<p>・すべての媒体で同じ情報を発信することは困難ではないかと考えている。他の先行自治体の事例を視察等にも行ったが、たとえば LINE においては、発信側が情報をいくらでも発信できるが、頻度が過ぎると受信側でブロックされてしまう。緊急情報など受け取ってもらいたい情報までブロックされ届かなくなることが懸念される。メディアをよく検討して発信していかなければならないと考えている。これからの取組であるので、どのメディアが最も有効か、効果を確認しながら進めていかねばならないと思っている。情報量を増やし、すべてのメディアでできるだけ多くの情報を流す案もあるが、担当としては有効であるとは考えていない。</p>
委員	<p>・それぞれのツールに「ターゲット世代」があると考え。ターゲット世代ごとにコンテンツをあてることを想定しているか。</p>
事務局	<p>・世代を用いるか、内容でツールを選択するかは検討中である。</p>
委員	<p>・LINE を選択するということは、全世代をみたときに、どちらかといえば若い世代をターゲットにしているのか。</p>
事務局	<p>・インターネットツールを用いた全世代に対する情報発信の中で、主には若い世代への情報発信強化を目的としているととらえていただいてよい。パソコン離れがすすみ、全世代でモバイル化が進んでいるととらえている。</p>
委員	<p>・お見込みのように全世代でモバイル化の流れがあり、年配層でもできる環境整備が進んでいると思う。</p>
委員	<p>・Facebook と LINE、Twitter は、すべて Facebook からの連動を想定しているか。それぞれのツールに特徴があるので、「緊急の情報は LINE」と定めるなど、特徴をとらえた運用をしてほしい。Facebook だと緊急情報もタイムラインのトップに来なければ、伝えたい情報も流れていってしまう。的確に運用しないとフォロワー数や浸透率も変わってくると思う。</p>

委員	<p>・Twitter は Facebook 連動と資料にあるが、Twitter から Facebook に連動で誘導されても、Twitter 側に表示された文言によほどの興味がないと、誘導先まで確認はしないと思われる。もちろん表示された文字だけ見て、文字情報だけで伝わるのであれば一定の効果はあり、取り組む意味はでてくると思う。見える部分、出だしの言葉を魅力的にする工夫は必要。</p>
委員	<p>・インスタグラムについても、以前等会議において検討議題が出たと記憶している。どれくらいの人がこれらのツールを使っているか。私は非常に活用している。LINE はほぼ一対一、友人や家族で利用しているのではないかと。Twitter はトランプ大統領が活用していることで有名でもあるが、ほんとうに一文が短い。三行ほどの文章で意見を出し合う。意見に対し、同意反論など様々な言葉が飛び交う。今回の選挙でもほとんどの政治家・政党が活用している。市がこれらのツールを活用していくことに意義はないが、誰がその情報を見るのか。情報発信をすれば、必ず見てもらわないといけない。多くの情報が流れている中で、宍粟市からのお知らせから見ようと思う人が何%いるかが問題である。私の提案として、情報を見ていただくために、例えば「情報交流センター」を設けて、市内外から登録者を募る。その登録者に対し情報を発信すれば確実に届く。そのような仕組みを作らなければ情報は届かない。また、登録者に対しては何かポイント制度のような優遇特典を発行してはどうかということも提案したい。ふるさと納税の仕組みと同様、方策を講じてからでなければ、ツールを増やしても見てもらえないので取り組んでもらいたい。</p>
委員	<p>・3つのメディアとインスタグラムの話が上がったが、皆さんが議論されているように性質がすべて違うので、いったん性質別に分けて表のようにするとよい。情報の一元化もあるが、LINE は緊急、Facebook はコメントを受け付けるかで運用が変わってくると思う。PR的な情報を出し、相当量の文章や写真で興味を引き、リンクを張ればもっと豊富な情報に結び付けることができる。Twitter は他と比べ扱いが難しいと思う。取り組みを整理し検討してほしい。</p>
委員長	<p>・報告事項 (1) タウンミーティングの取組について説明を願う。</p>
事務局	<p>○報告事項 (1) タウンミーティングの取組について説明</p>
委員長	<p>・次回以降の委員会でタウンミーティングの取組成果について報告いただきたいと思う。では閉会にあたり副委員長に閉会あいさつをお願いします。</p>
副委員長	<p>・長時間にわたりお疲れさまでした。以前にも増して提言も多くあり、事務局としての課題も見えたのではないかと思います。年に3~4回のこの委員会をいかに有意義に活用しようとするか、やり方についても浮き彫りになったと思っている。課題別でテーマを分ける方法、もう少し分科会的な形で項目を絞って積み上げる中で、1年を通して委員会で検討していくなど、いろいろな方法が考えられる。議論は積み上げの議論でないとならないし、実のある議論でなくてはならないと私は常々思っている。ぜひ今日の議論を一つの題材として次回の委員会には、こういうことがひとつの方向性として出た、具体的な提案ができたというような実りのある委員会にしていだければと思っています。事務局は委員からの生の意見を大切に、特に出しっぱなしではなくそのことに対しての点検なり報告ということ、ぜひ心がけて進めるように依頼したい。それでは29年度の第2回会議を終了します。</p> <p>(終了 11:50)</p>